

令和5年度（2023年度）
第1回熊本県立美術館協議会

令和4年度（2022年度）
熊本県立美術館事業報告

ア	展覧会活動について	P 2
イ	入場者数等の推移について	P 21
ウ	教育普及活動について	P 22
エ	美術品収集について	P 25
オ	永青文庫振興基金事業について	P 32
カ	改修工事について	P 35

ア 展覧会活動について

I 常設展

1 第Ⅰ期コレクション展

入館者 本館2階：4,495人 別棟：4,362人 計8,857人

[細川コレクション]

黒の魅力 期間限定公開！菱田春草《黒き猫》

会 期 令和4年4月8日（金）～6月26日（日）
会 場 本館別棟展示室
主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送
担 当 者 萬納恵介
入館者数 4,362人
内 容

日本の美術には、伝統的に様々な色が使われてきた。本展では細川コレクションを中心に、特に「黒」を基調とする美術品を展示し、「黒」色を効果的に表現するために用いられた技法や、「黒」色の意味に注目することで、美術における「黒」色の魅力に迫った。展示作品は書、絵画、工芸品と多岐にわたり、濃淡や線の太さ、そして他の素材と組み合わせられた時にあらわれる「黒」色の効果を丁寧に解説した。

前期に展示した《黒き猫》が人気の作品とあってか、展示中はたくさんの来館者があった。その半面、展示替え以後は見られないことを惜しむ声も聞かれた。

なお、展示替えの少し前に、事前に撮影した高精細画像を使用して「4K でイッピン！」と題したスライドショー形式の動画を作成。肉眼、それもケース越しではわかりにくい細かい表現を鑑賞できるようにし、ツイッターやYoutubeで公開した。



関連行事

・来館者限定特典の配布

(1) SNS で熊本県立美術館を応援しよう！

会期中、本展を観覧いただき、当館のTwitter、Instagramをフォローするか、ハッシュタグ「#熊本県立美術館」と付けて SNS で観覧について投稿した方に、オリジナルの黒き猫缶バッチをプレゼントした。

(2)あなたが身に着けた黒

アクセサリーや衣服など、黒色のものを身に着けて来館された方に、手作りしおり等をプレゼントした。

[美術館コレクション]

第38回全国都市緑化くまもとフェア連携企画

水・緑・花 くまもとの風景と自然の恵み

会 期 令和4年3月19日(土)～6月12日(日)

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 金子岳史

入館者数 4,495人

内 容 自然と美術作品は、深い関係にあると言える。自然の恵みである水や緑、草花を表現し、それを愛でることは、古今東西に関わらず人類共通の営みであった。とくに日本・東洋の古美術は、鉱石から生み出される絵具、土から作る焼きもの、漆塗りの工芸品など、自然から生み出された素材を使うものが多い。また、《領内名勝図巻》に見られるように、熊本には、水や緑の美しさが江戸時代から変わらず受け継がれていることがわかる。

本展覧会は、当館の古今東西にわたる様々な作品を、「水・緑・花」というテーマの下で紹介する企画であった。まず「肥後の風景」と題して、《領内名勝図巻》《北山秋景・西山秋景》《阿蘇下野狩図屏風》など、肥後の古い風景を描いた作品

を展示し、森や水とともに生きてきた熊本の歴史を紹介した。次に「花と緑の装飾」として、《四季花鳥図押絵貼屏風》をはじめとする絵画や工芸品など、花や緑を装飾に用いた作品を展示した。そして、「水の表現」というテーマで、無色透明で不定形なモチーフである「水」を、美術でどのように表現してきたかを、水墨の山水図、傘を持った浮世絵の美人画など、様々な作品から紹介した。さらに、「イメージとしての水、緑」として、水・緑・自然などをイメージした洋画、またはそれらを想起させる抽象画を展示した。



関連行事 4月30日(土)ミュージアムセミナー

講 師：金子岳史(当館学芸員)

参加者数：25人

3月27日(日)、4月10日(日)、5月1日(日)、15日(日)、29日(日)、6月12日(日)

学芸員によるギャラリートーク

2 第Ⅱ期コレクション展

入館者 本館2階：7,349人 別棟：13,978人 計21,327人

[細川コレクション]

雅 細川家の歴史と美

会 期 第1部：令和4年7月15日（金）～9月25日（日）
第2部：令和4年10月1日（土）～12月25日（日）

会 場 本館別棟展示室

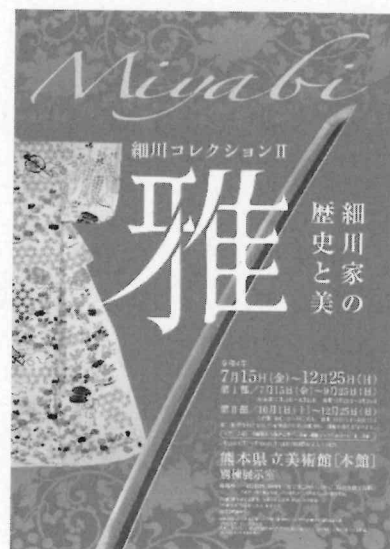
主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK熊本放送

担 当 者 宮川聖子

入館者数 13,862人

内 容 公益財団法人永青文庫には、熊本藩主細川家の歴史・文化を物語る優れた美術品や古文書の数々が所蔵されている。本展では、熊本の宝である貴重な文化財を紹介し、細川家の歴史・文化に親しんでいただくため、調度・装束・武器武具・古文書といった分野横断的なラインナップを展示した。具体的には、細川家ゆかりの名刀や甲冑などの武器武具、藩主夫人が用いた蒔絵の調度類や華やかな装束、細川忠興の手紙やゆかりの茶道具などを紹介した。

また、今回は細川忠興所用と伝わる《刀 銘濃州関住兼定作（通称、歌仙兼定）》とその拵を期間限定で特別展示し、オンラインゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」とコラボした。



関連行事 7月31日（日）子ども美術館
君も体験してみよう！ むかしの手紙の書き方
参加者数：17人
10月29日（土）ミュージアムセミナー
講 師：才藤あずさ（当館学芸員）
参加者数：15人

[美術館コレクション]

再発見！ジモトアート 人でつながる熊本の美術

会 期 令和4年7月15日（金）～10月2日（日）

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 才藤あずさ

入館者数 7,349人

内 容 当館には熊本ゆかりの美術工芸品が数多く収集されている。そのうち、本展では近世から近現代に至る熊本ゆかりの絵画、書跡、工芸品等を取り上げ、熊本の美術の流れを紹介した。

第1章では、近世熊本を彩った文化を、熊本を治めた殿様を軸に紹介。狩野派や矢野派の絵師が手掛けた屏風や絵巻、同田貫派の刀剣や、小代焼・八代焼などの熊本の陶磁器を展示した。

第2章では、幕藩体制が崩壊し、庇護者を失った絵師や職人の多くが廃業の道をたどる中、近代的な日本画の在り方を追求した熊本出身の日本画家たちの作品を中心に紹介した。

第3章では、師弟関係など、美術学校や美術団体に見られる人のつながりによって、熊本洋画の芽生えから発展までをたどった。熊本初の本格的美術団体・熊本美術会を立ち上げた青木彝蔵や富田至誠にはじまり、熊本を代表する作家である浜田知明や井手宣通、牛島憲之らに加え、熊本ゆかりの藤田嗣治（レオナール・フジタ）、海老原喜之助らと彼らに関係したエコール・ド・パリの画家たちの作品を展示した。



関連行事 7月24日（日）、8月14日（日）、28日（日）、9月11日（日）、25日（日）
学芸員によるギャラリートーク

3 第Ⅲ期コレクション展

入館者数 本館2階：4,300人

[美術館コレクション]

仏と神と侍と

会 期 令和4年10月7日(金)～12月25日(日)

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 萬納恵介

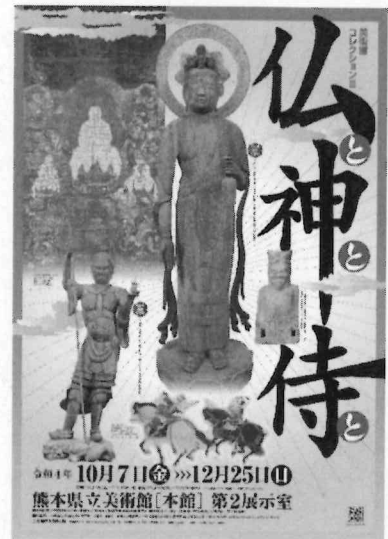
入館者数 4,300人

内 容 当館には、熊本市の大慈寺や菱形八幡宮、玉名市の広福寺など様々な寺院や神社から寄託された仏像、絵画をはじめとした美術工芸品が保管されている。どれも中世熊本の歴史をものがたる貴重な文化財であり、分野は彫刻、絵画、工芸、書跡など多岐にわたる。本展ではまず、これらの寺院、神社の美術品と、当館のコレクションから仏と神をモチーフとした作品を紹介し、仏と神の美術の歴史を振り返った。

ほとんどの寺院や神社に共通しているのは、地域の有力者、特に武士たちの影が見え隠れすることである。幾度も合戦を繰り返した武士にとって、寺社とはおのれの武運長久と一族の結束を願う信仰の対象だった。同時に寺社を保護することによって、周辺に住む人々の信頼を得てきた。また、細川家も江戸時代に350年にわたって肥後熊本藩をおさめた大名として、藩内の多くの寺院や神社に深くかかわってきた。本展では、仏と神と侍の間に結ばれた関係と、それによってもたらされたものについて迫った。

また、第3室では、本展のキーワードとなった「信仰」と「戦い」に関連して、当館の日本近現代及び西洋の絵画コレクションから真道黎明、高濱虎喜、秀島由己男、ケーテ・コルヴィッツらの絵画及び版画作品を展示した。

徐々に寒くなっていく時期の美術館コレクション展としては、例年に比べ入場者が多かった。仏教会事務局をはじめとした展覧会のテーマに合う関係団体へのポスチラ配布、30点以上の展示替えを行う自主企画特別展並みに充実したラインナップ、東京国立博物館等における仏教美術や武士をテーマにした展覧会や、NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の人气が影響したとみられる。SNS上においても観覧者による高評価投稿が散見された。



関連行事 12月17日(土) ミュージアムセミナー

講 師：萬納恵介(当館学芸員)

参加者：28人

10月9日(日)、23日(日)、11月13日(日)、20日(日)、
12月11日(日)、25日(日)
学芸員によるギャラリートーク

4 第Ⅳ期コレクション展

入館者 本館2階：2,460人 別棟：2,377人 計4,837人

[細川コレクション]

最後の熊本藩主夫人・峯君

会 期 令和5年1月12日(木)～3月19日(日)
会 場 本館別棟展示室
主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送
担 当 者 宮川聖子
入館者数 2,377人
内 容

最後の熊本藩主・細川韶邦の正室である峯君に注目し、ゆかりの品々の展示を通して、その生涯を紹介した。

京都生まれの峯君は、安政元年(1854)に興入れによって江戸へ移住。さらに、文久3年(1863)には参勤交代制の緩和によって、江戸から熊本へ移住。江戸幕府開闢以来、正室が熊本に入国するのは初めてのことであった。その後、明治4年(1871)には再び東京へ戻り、59歳で今戸邸にて死去した。

峯君を他の正室と比較したとき、その生涯に移動が多いことが目立ち、まさに幕末維新期の動乱に翻弄された女性といえる。また、熊本時代は御船町の七滝を見学するなど、アクティブな一面も知られている。さらに、近代以降になって細川家が天皇家と親しく交流できたのは、峯君の義妹が昭憲皇太后(明治天皇の皇后)であることが大きく関係しており、近代細川家にとって、峯君の存在は小さくない。

そこで本展では、歴史に埋もれがちな女性である峯君に焦点をあて、観覧者に興味・関心をもってもらえるエピソードを古文書からふんだんに発掘し、その波乱に満ちた生涯をわかりやすく紹介した。



関連行事 3月4日(土) ミュージアムセミナー
講 師：宮川聖子(当館学芸員)
参加者：28人

[美術館コレクション]

“表情”でみる美術

会 期 令和5年1月7日(土)～3月19日(日)

会 場 本館第2展示室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 金子岳史

入館者数 2,460人

内 容 熊本県立美術館の古今東西のコレクションを“表情”という視点から見てもらう展覧会であった。人物画のモデルとなった人の表情、歴史画や物語の登場人物を想像して描いた表情、雛人形の表情など、よく見ると美術作品からはさまざまな表情が見て取れる。表情から感じ取る印象はもちろん人それぞれで、一つの正解が設定されているわけでもない。また、人物だけでなく動物を描いた作品にも表情を感じさせるものもあれば、刀剣の刃文、やきものの色合い、漆工品や金屏風など、作品そのものが光や見る角度によって異なる“表情”を見せるものもある。

本展では、西洋絵画から日本の近世・近代日本画、細川家伝来の雛人形、工芸品など、さまざまな異なるジャンルの作品を、“表情”という一つのテーマ・視点のもとで紹介した。

また教育普及活動の一環として、来場者に各作品から伝わる感情を「心のチャート」にシールを貼って示してもらう、参加型鑑賞のコーナーを設けた。



関連行事 1月22日(日)、2月12日(日)、26日(日)、3月12日(日)
学芸員によるギャラリートーク

5 その他常設展示

① 浜田知明作品

会 期 2階コレクション展と併せて展示替え

会 場 本館2階浜田知明室

主 催 熊本県立美術館

担 当 者 山中理彩子、香月比呂、藤本真緒

内 容 熊本を代表する版画家・彫刻家である浜田知明の版画・彫刻作品10点程度を入れ替えながら展示した。第1期(3/19~6/12)は「影」と題して7点の版画作品を展示し、描かれた影によってもたらされる様々な表現上の効果を取り上げた。第2期(7/15~10/2)は「人間社会」と題して、人物群像による7点の版画・彫刻作品を展示し、社会構造や人間関係に向けた浜田の批評性に着目した。第3期(10/7~12/25)は「浜田知明と動物たち」と題し、動物が登場する版画・彫刻作品9点を展示。美術における主要なテーマである動物が、浜田作品でどのように取り上げられたかを概観した。第4期(1/7~3/19)は、同時開催の美術館コレクション展「表情でみる美術」に関連して、「浜田知明の表情」と題し、描かれた人間の“表情”と、モチーフを描く線の“表情”に注目した版画作品9点を展示した。

② 装飾古墳室常設展示

装飾古墳は全国で約700基確認されているが(平成30年時点)、九州の北・中部に集中的にみられ、県内には約200基が存在する。当館の装飾古墳室では、熊本県の代表的な装飾古墳を実物とレプリカで再現し、考古学ファンや児童生徒、一般来館者に楽しんでもらっている。

平成28年(2016年)4月の「熊本地震」によって古墳室内の展示ケース等が破損したため一部区画を閉鎖していたが、平成29年度(2017年度)「本館機能強化工事」によって全国の装飾古墳情報(文字情報と画像)を検索できる端末(2台)を設置する情報スペースとした。ただし、端末はタッチパネルにより操作するため、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、使用を停止している。

なお、令和3年度(2021年度)の改修工事で、展示室内の照明を一新。これまで見ることができなかった、装飾古墳の壁面や石像の文様など微妙な凹凸が感じられるようになった。

II 共催展

1 熊本日日新聞社創立80周年記念

印象派との出会い—ひろしま美術館コレクション

会 期 令和4年4月15日（金）～6月5日（日）
会 場 本館第1展示室
主 催 熊本県立美術館、熊本日日新聞社、RKK 熊本放送、共同通信社
特別協力 公益財団法人ひろしま美術館
特別協賛 肥後銀行
担 当 者 山中理彩子
入館者数 16,374人
内 容

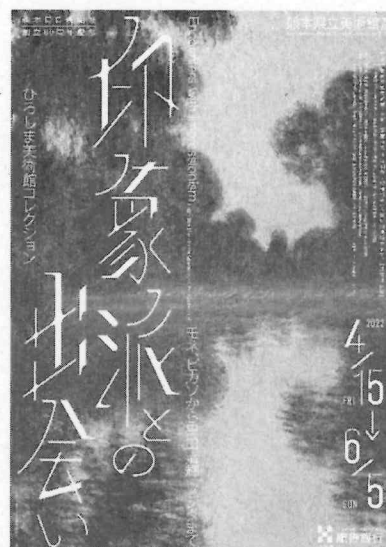
ひろしま美術館（広島市）はフランス近代美術及び日本近代美術を所蔵し、その印象派を中心としたコレクションは海外からも高い評価を受けている。本展では、同館のコレクションの白眉であるクロード・モネ《セヌ河の朝》、ルノワール《パリの審判》、パブロ・ピカソ《女の半身像（フェルナンド）》をはじめとする絵画67点・彫刻2点を選びすぐってご紹介した。

展覧会は5章で構成され、フランス近代美術では印象派の先駆けとなったバルビゾン派から、印象派を経て、20世紀のモダン・アートの巨匠まで、日本近代美術では明治から第二次世界大戦前までの画家の作品を選定し、19世紀後半から20世紀までのフランス・日本美術の展開や、フランスと日本の美術交流が見てとれる展示とした。

本展は根強いファンを有する印象派がテーマであり、当館で約5年ぶりの西洋美術展であったため、熊本日日新聞及びRKKを中心とした広報活動を支えとして、SNSで活発な来館者による発信が確認されるなど、多くの注目を集めた。結果として、依然としてコロナの流行が懸念される中、入館者数はコロナ以前の西洋美術展に迫る数となった。リピーターが散見される一方、美術館に来た経験が少ないとみられる来場者も多く、幅広い層の関心を引いたようである。

また、教育普及活動では、展覧会の構成と見どころをわかりやすく解説した鑑賞ガイドを配布した。さらに、以下の各種イベントを開催し、特にワークショップ「子ども美術館」では、点描技法をテーマに色彩の仕組みと魅力を体験してもらい、参加者全員で楽しみながら大きな点描作品を作り上げた。そのほか、出品作品の多くを来場者の撮影可としたことも、聞き取りによると好評であった。

会期中のアンケートでは、展覧会の内容を88.4%が満足・やや満足と回答（回答数52）し、総じて満足度の高い展覧会であったといえる。



関連行事 4月16日（土）特別講演会

「ひろしま美術館のコレクションにみる西洋近代美術の核心」

講 師：古谷可由氏（ひろしま美術館学芸部長）

参加者数：39人

5月1日（日）子ども美術館

講 師：福田友子（当館学芸普及課参事）、藤本真緒（当館学芸員）、
山中理彩子（当館学芸員）

参加者数：9家族 38人

5月21日（土）ミュージアムセミナー

講 師：山中理彩子（当館学芸員）

参加者数：46人

5月30日（月）障がいのある方々のための鑑賞デー

4月24日（日）、5月8日（日）、22日（日）、6月5日（日）

学芸員によるギャラリートーク

2 美の旅 西洋美術400年 珠玉の東京富士美術館コレクション

会 期 令和4年7月16日(土)～9月4日(日)
会 場 本館第1展示室
主 催 熊本県立美術館、TKU テレビ熊本
特別協賛 メインプレイスカンパニー
協 賛 日創アーキテクト、磯崎工務店、Mignonne Hills
担 当 者 香月比呂
入館者数 39,875人

内 容 本展は東京都八王子市に所在する東京富士美術館所蔵の西洋絵画82点によって、ルネサンスから近代に至る西洋美術400年の歴史を一望するという趣旨のもとに企画された巡回展である。美術の世界が“ジャンルの序列”というルールに支配されたルネサンス以降の時代から、この枠組みが打破され、多彩な美術様式が開いた近代までを、著名画家たちの作品によって迎えることができる本展は、作品の質と内容ともに充実した巡回展であったといえる。

本会場での開催にあたっては、来場者がスムーズに展示の流れを理解できるよう、造作と順路に配慮するとともに、子どもたちに展示のポイントを分かりやすく伝えるため、解説シートを作成し会場内で無料配布した。また、クロード・モネの《睡蓮》など、各章のハイライトとなる作品5点を撮影スポットとして設定し、会期中には来場の記念として多くの方々が撮影をおこなう姿がみられた。

また、関連行事として、開会式当日には東京富士美術館館長の五木田氏を招聘し特別講演会を開催した他、子ども美術館では身近な道具を用いて油絵風の作品を制作する家族向けワークショップを実施した。

本展は新型コロナウイルス感染拡大第7波の只中での開催となったものの、広報効果や久々の開催となった西洋美術展への県民の期待もあってか、39,875人の来場者を記録し、総じて成功裏に会期を全うした。



関連行事 7月16日(土) 特別講演会

「名画を旅する90分」

講 師：五木田聡(東京富士美術館館長)

参加者数：50人

7月25日(月)、8月15日(月) 特別開館日 ※7月25日は手話通訳有り

8月14日(日) 子ども美術館

講 師：福田友子(当館学芸普及課参事)、香月比呂(当館学芸員)

参加者数：9家族 26人

8月20日(土) ミュージアムセミナー

講 師：香月比呂(当館学芸員)

参加者数：56人

7月24日（日）、8月14日（日）、28日（日）

学芸員によるギャラリートーク

3 ジブリパークとジブリ展

会 期 令和5年1月20日(金)～3月28日(火)
※3月26日(日)閉幕予定を2日間会期延長

会 場 本館第1展示室

主 催 熊本県立美術館、KKT 熊本県民テレビ

企画制作協力 スタジオジブリ、三鷹の森ジブリ美術館、ジブリパーク

協 力 株式会社 再春館製菓所

協 賛 DNP 大日本印刷、KMバイオロジクス、メインプレイスカンパニー、新星、総合
プラント、ケイワード九州、金沢電気設備、東宝ホーム熊本支店

担 当 者 萬納恵介

入館者数 165,268人

内 容 令和4年(2022年)11月に愛知県長久手市にオープンした「ジブリパーク」建設の舞台裏と、「ジブリパーク」建設の総指揮をとった宮崎吾朗監督の仕事を振り返った展覧会。アニメ制作の現場を紹介する資料のほか、初公開の展示物が並ぶ一方で、『となりのトトロ』に登場した「ネコバス」と「サツキとメイの家の1/5スケール模型」、『千と千尋の神隠し』の場面をモチーフにした「にせの館長室」、「なりきり名場面展」も登場した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のための混雑緩和を目的として、当館としては初めて日時指定チケットの事前購入による予約制を導入。展覧会開幕当初こそ、予約枠に空きがある日もあったが、会期中盤以降は連日売切れが続いた。そのため会期を延長し、結果として、これまでの一展覧会あたりの最多入場者数を大幅に更新することができた(これまでの記録は平成23年度「スタジオジブリ・レイアウト展」の98,273名)。

年代を問わず、はじめて来館したとみられる方が多く、チケット購入方法や交通手段など様々なご意見があったが、こうした大規模展覧会を開催する上でのノウハウを蓄積する機会にもなった。



4 ^き生の芸術 ^{アール ブリュット} Art Brut 展覧会 vol.8

- 会 期 令和4年11月16日(水)～27日(日)
- 会 場 本館第1展示室(1・2室)
- 主 催 アール・ブリュット(生の芸術)パートナーズ熊本
- 共 催 熊本県立美術館/熊本県教育委員会、社会福祉法人愛隣園
- 担 当 者 福田友子、大村郁敬、香月比呂
- 入館者数 1,806人
- 内 容 本展は、「誰に教わったわけでもない。熊本が育んだ魂の表現」をテーマに、日本を代表するアール・ブリュット作家・松本寛庸^{ひろのぶ}氏と藤岡祐機氏の作品をはじめ、障がいのある熊本県在住の作家25人による作品を展示。作家にとって県立美術館での展示は、作品を通じた交流の場であり、認められる喜びが創作意欲や自立へとつながっている。新作にとどまらず過去の作品を織り交ぜ展示することで、彼らの表現をより深く味わっていただく機会とする。また、特別展示として当館所蔵のジャン・デュビュッフェによる版画作品4点を展示。

Ⅲ アウトリーチ事業（巡回展・スクールミュージアム）

1 スクールミュージアム

会 期 10月～12月（15校10か所）

主 催 熊本県立美術館

観覧者数 4,167人

担 当 者 福田友子、藤本真緒、当館学芸員

内 容 当館では、平成18年（2006年）から県内の学校を対象とした教育普及活動として、美術館の収蔵品を学校に持参して展示・授業をおこなう「スクールミュージアム」を開催してきた。この事業は、活動を通して子どもたちの芸術や文化を愛好する心を育むとともに、地域にひろく美術鑑賞の機会を設けることを目的とする。令和4年度は、下記の県内15校（10か所）で実施した。展示作品は、浜田知明、マルク・シャガールの版画作品と原版。なお実施に当たっては、新型コロナウイルス感染防止対策について各学校と事前に協議をおこなった。

実施日	実施校	児童・生徒 参加者数	教職員 参加者集	保護者等 参加者数	合計
10月14日(金)	上天草市立大矢野中学校	282	48	105	435
10月17日(月)	山鹿市立八幡小学校	206	24	32	262
10月20日(木)	芦北町立田浦小学校	151	18	13	182
10月27日(木)	菊池市立七城中学校・小学校	244	27	17	288
11月 4日(金)	大津町立大津中学校・大津高校	464	53	199	716
11月11日(金)	天草市立栖本小学校・中学校	104	17	31	152
11月21日(月)	九州学院高等学校・中学校	1,350	36	0	1,386
11月22日(月)	天草市立五和小学校・中学校	282	35	15	332
11月24日(木)	合志市立合志小学校	309	27	0	336
12月 5日(月)	宇城市立海東小学校	59	11	8	78
総計	15校	3,451	296	420	4,167

2 ミュージアムバス

会 期 8月30日（火）、9月2日（金）、1月24日（火）

主 催 熊本県立美術館

観覧者数 126人

内 容 県立美術館から遠隔地にあり、県立美術館へ来る機会が少ない県内の小中学校を、美術館へ招待するシャトルバス事業。令和4年度（2022年度）は、「令和2年7月豪雨」で被災した八代・人吉・球磨地域の学校から、応募のあった3校を招待した。

実施日	実施校	児童 参加者 数	教職員 参加者集	合計
8月30日（火）	球磨村立一勝地小学校	31	4	35
9月2日（金）	八代市立八竜小学校	45	9	54
1月24日（火）	球磨村立渡小学校	31	6	37
総計	3校	107	19	126

IV その他の活動

1 新型コロナウイルス感染症への対応

- ・ 非接触体温計及び非接触式サーモグラフィーカメラによる来館者の検温及び、館内の消毒液設置を継続。
- ・ 受付及び、展覧会場出入口パーテーション・喫茶室アクリルパーテーション（抗菌・抗ウイルス加工）設置を継続
- ・ 職場クラスター防止対策として事務室、受付等にある電話機、プリンタなど職員が触れる箇所の1日1回全職員による消毒の実施等々。
- ・ 国及び県の方針等に基づき、マスクの着用等について対応。

2 特別開館日（旧名称：障がいのある方々のための鑑賞デー）

通常休館日である月曜日を臨時開館し、障がいのある方々にゆつくりと、また、通常月曜日を週休日とする職種の方々などに展覧会をご観覧いただく日としたもの。午前・午後に分けて、学芸員と手話通訳者による解説も行っている。

（日程） （手話通訳付き解説を行った展覧会）

5月30日（月） 印象派との出会い ひろしま美術館コレクション
水・緑・花 くまもとの風景と自然の恵み

7月25日（月） 再発見！ジモトアート 人でつながる熊本の美術
美の旅 西洋美術400年一珠玉の東京富士美術館コレクション

3 展覧会広報事業

（1）印刷物及びインターネットによる広報

- ・ 展覧会スケジュール、展覧会のポスター・チラシ、美術館情報誌「View（年4回発行）」などの印刷物による広報及び各種情報誌・ウェブサイトへの展覧会情報掲載。
- ・ ホームページ、Twitter、Instagram、YouTube等インターネットによる広報
- ・ その他情報誌紙（WEB含む）無料掲載多数
- ・ 県広報グループ等を通しての広報（報道資料の投込み、県政広報番組（テレビ・ラジオ）「県からのお知らせ」コーナー、各地区県人会会報、官公庁機関誌への情報提供、県庁地下通路での展示、等）

（2）各種メディア等による広報（共催展等を除く）

- ・ RKK熊本放送ラジオ・テレビ広告（2展覧会）
- ・ くまにちすぱいす（熊本日日新聞社発行フリーペーパー）広告（1展覧会）

（3）周辺施設等との連携による広報

- ・ 熊本城無料シャトルバス、熊本城周遊バス（しろめぐりん）、城彩苑 広告掲出
- ・ 近隣施設（主要宿泊施設・文化施設・観光施設・神社・病院等）の協力によるポスター掲示、チラシ掲出
- ・ わくわく座、熊本城おもてなし武将隊とSNSによる展覧会告知

（４）コロナ禍終息後のインバウンド復活に向けた広報事業展開

- ・ ホームページの外国語ページ（英語）による、展覧会等の情報を掲載
- ・ 年間スケジュールの多言語版（英語、中国語（簡体・繁体）、韓国語）の作成

4 インターネット美術館の推進

（１）新型コロナウイルス感染症対応を契機とした「おうちで美術館」等の展開

自宅でも美術館を楽しんでもらうための事業「おうちで美術館」として、以下のコンテンツを当館ホームページ、Twitter、Instagram、YouTubeで配信した。フォロワー数はTwitter 5,757人、Instagram 1,370人、YouTube 動画公開数12本。※R5.7.27現在。

- ・ 熊本県立美術館が所蔵する作品をぬりえにした「美術館ぬりえ」
- ・ YouTubeの「熊本県立美術館公式チャンネル」で、細川コレクションI「黒の魅力」で展示した菱田春草《黒き猫》の高精細画像を使用した動画「4Kでイッピン!」、ポケット学芸員の使い方を解説した動画を公開。

（２）収藏品データベースの整備

- ・ 当館ホームページが県庁ホームページに統合されるのに伴い、これまでHP内で公開していた収藏品データベースを令和2年度（2020年度）に新システムに移行。
- ・ 新データベースでは、コレクションの一般公開に加え、美術品管理台帳の出力や画像の管理、貸出状況の確認など、美術館内部における管理システムの拡充を図る。
- ・ 令和2年（2020年）11月より、新データベースによる収藏品の公開を開始（令和5年7月現在4,945点）。

（３）ポケット学芸員の導入

- ・ データベース移行に付随して、あらかじめ登録した美術品の画像や解説をスマートフォンで閲覧できる「ポケット学芸員」を導入。令和2年11月より一部作品の公開をおこなっている。
- ・ 今後、美術品の展示状況や、データベースの更新状況に合わせ公開数を拡大する（令和5年7月現在172点を公開）。

5 地域や他施設等との協働事業

(1) バックヤードツアー

熊本城を中心とする細川家関連遺産群を活用した観光事業の一環として、ツアーの実施を希望する事業者からの相談に応じ、受け入れを行った。

ツアーに「特別感」を創出するために、永青文庫別棟展示室の展覧会解説の他、普段一般客は入ることができないバックヤードや収蔵庫の見学、さらに当館が修復した美術品を紹介した。



(2) ユニークベニュー利用促進事業実証実験

熊本国際観光コンベンション協会との共同にて施設の新たな活用方法として検討を行った。引き続き地域や他施設等の協働事業の実施に向けて検討を行っていく。

(3) 「美術館おやこ無料デー」の実施

「教育・文化週間」、「くまもと教育の日」の趣旨に添い、高校生以下の子ども保護者（子ども1名につき保護者2名まで、妊娠中の女性とパートナーも含む）の入館料を無料とする「美術館おやこ無料デー」を実施した。

実施日：11月3日（木・祝）

観覧者数：本館 161人（うち高校生以下53人、保護者等41人）

別棟 67人（うち高校生以下27人、保護者等24人）

イ 入場者数等の推移について

年 度	主催・共催展			貸 会 場			計		
	回数	日数	入場者数	回数	日数	入場者数	回数	日数	入場者数
平成25年度	24	766	140,291	171	1,047	222,282	195	1,813	362,573
平成26年度	24	736	101,242	163	1,050	274,295	187	1,786	375,537
平成27年度※1	21	586	82,968	123	801	214,023	144	1,387	296,991
平成28年度※2	26	316	45,880	95	586	97,932	121	902	143,812
平成29年度※3	22	430	101,147	104	667	173,631	126	1,097	274,778
平成30年度※4	25	642	115,013	148	1,255	209,691	173	1,897	324,704
令和元年度※5	90	631	66,464	144	1,125	169,125	234	1,756	235,589
令和2年度※6	46	513	33,008	39	246	35,577	85	759	68,585
令和3年度※7	30	343	43,513	81	687	90,694	111	1030	134,207
令和4年度	37	717	266,268	116	704	139,097	153	1421	405,365

※貸会場は分館入場者数を含む

※令和元年度～令和4年度の「主催・共催等」の入場者には、特別講演会・子ども美術館等の参加者数を含む

◎令和元年度 本館入館者数 73,051（玄関カウンター）

◎令和2年度 本館入館者数 62,396（玄関カウンター）

◎令和3年度 本館入館者数 30,517（玄関カウンター）

◎令和4年度 本館入館者数 266,268※

※令和4年度本館入館者数は玄関カウンター不具合のため、主催・共催展の入場者数と同数で計上

※1 平成27年度 第一次改修工事による臨時休館（12/28～3/31）

※2 平成28年度 第二次改修工事による臨時休館（10/11～2/10 ※2/11～3/26 は別棟のみ開館）

※3 平成29年度 第三次改修工事による臨時休館（11/13～3/31）

※4 平成30年度 第三次改修工事による臨時休館（4/1～4/26）

※5 令和元年度 第四次改修工事及び新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休館（12/16～3/31 ※1/8～2/27 は別棟のみ開館）

※6 令和2年度 新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休館（4/1～5/6）
分館改修工事による臨時休館（5/11～11/30）。この期間の分館開催予定団体展等は、本館にて開催予定だったが、コロナ感染症拡大のためほとんどが中止となった。

※7 令和3年度 新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休館（4/24～6/28）
本館改修工事による臨時休館（9/13～12月末）

ウ 教育普及活動について

※新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、ソーシャルディスタンスを保つため、人数制限や時間制限を行うなど、感染症拡大防止対策を徹底のうえ実施した。

① 子ども美術館（実施場所：文化交流室及び展覧会場他、時間：10:30～12:00）

期 日	関連展覧会	参加者数 事前募集、定員制
5月1日（日）	印象派との出会い	38
7月31日（日）	細川家の歴史と美	17
8月14日（日）	美の旅 西洋美術 400年	26

② おしゃべり鑑賞タイム（実施予定：展覧会場 10:00～13:00）

期 日	内 容
5月1日（日）	10時から13時までの3時間を「おしゃべりしながら鑑賞できる」時間帯とするもの。家族や友達と会話しながら鑑賞を楽しめる。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
7月31日（日）	
8月14日（日）	

③ 特別講演会（実施場所：文化交流室、時間 13:30～15:00）

期 日	関連展覧会	参加者数
4月16日（土）	印象派との出会い展 ひろしま美術館学芸部長 古谷可由氏	39
7月16日（土）	美の旅 西洋美術 400年 東京富士美術館館長 五木田聡氏	50

④ ミュージアムセミナー（実施場所：文化交流室、時間 13:30～14:30）

期 日	関連展覧会	講 師	参加者数
4月30日（土）	水・緑・花 一くまもとの風景と自然の恵み	学芸員 金子 岳史	25
5月21日（土）	印象派との出会い	学芸員 山中 理彩子	46
8月20日（土）	美の旅 西洋美術 400年	学芸員 香月 比呂	56
10月29日（土）	細川家の歴史と美	学芸員 才藤 あずさ	15
12月17日（土）	仏と神と侍と	学芸員 萬納 恵介	28
3月4日（土）	最後の熊本藩主夫人・峯君	学芸員 宮川 聖子	28

⑤ おわったアートのポスターさしあげます（実施予定：文化交流室、時間 10:00～16:00）

期 日	内 容
8月28日（日）	2021年に全国で開催された展覧会ポスターを無料配布。ポスターで、ペーパーバックをつくるコーナーもあり。 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止

⑥ かぞくでアート☆(実施場所:文化交流室及び展覧会場他、時間:10:30~12:00)

期 日	内 容	参加者数 事前募集、定員制
10月2日(日)	当館所蔵品をカードにした「アートカード」を使って、家族で楽しく鑑賞ゲームを行い、美術鑑賞に親しむ機会とする。ゲームの後は、バックヤードツアーやミニミニ美術館制作を実施した。	16
11月6日(日)		27
12月4日(日)		23
11月3日(木・祝)	文化の日親子無料デー関連イベント 「学芸員と甲冑のひみつを探ろう!」ワークショップ	11

⑦ 鑑賞ツール「熊本県立美術館アートカード」の作成と活用 ※令和4年10月2日発行

(1)「熊本県立美術館アートカード」を活用したイベント・研修

- ・美術鑑賞ワークショップ「かぞくでアート☆」
- ・くまもとキッズミュージアム(主催:博物館ネットワークセンター)
- ・教員向け研修「教員のための博物館の日」(主催:博物館ネットワークセンター)
- ・熊本県博物館連絡協議会専門研修会(主催:博物館ネットワークセンター)
- ・熊本県立初任者研修(主催:熊本県教育センター)

(2)学校での活用

- ・アートカード・セットの貸し出し(鑑賞の授業や来館前の事前学習での活用)
- ・関連ワークシートの提供

⑧ 展覧会に合わせたワークシートの作成・配布

- ・[美術館コレクション] 水・緑・花 くまもとの風景と自然の恵み
- ・[特別展] 美の旅 西洋美術400年 珠玉の東京富士美術館コレクション
- ・[美術館コレクション] 仏と神と侍と

⑨ その他

- ・特別講演会
- ・ギャラリートーク
- ・特別開館日・障がいのある方々のための鑑賞デー
- ・学校団体利用の対応

⑩ 令和4年度講座（職員を講師として派遣）

		期日	内容	担当者	場所
講 座 等	1	6月29日(水)	第1回熊本元気塾 「細川家の『文化外交』～細川重賢・ 齊茲と松平定信らの絵画を通じた 政治交流～」	金子岳史	熊本市流通情報会 館 展示場
	2	8月4日(木)	「教員のための博物館の日」 鑑賞教材アートカードについて	福田友子 藤本真緒	熊本県立装飾古墳 館
	3	8月7日(日)	わかはく講座 “サラリーマンコレ クター”今西菊松氏の眼	金子岳史	福井県立若狭歴史 博物館
	4	9月8日(木)	さわやか大学校（熊本校）講演 「細川家伝来の大名道具」	才藤あずさ	熊本県総合福祉セ ンター
	5	10月6日(木)	「県立初任者研修」講師 鑑賞教材アートカードについて	福田友子	熊本県立教育セン ター
	6	10月11日(火)	さわやか大学校（八代校）講演 「細川家伝来の大名道具」	才藤あずさ	桜十字ホール八代
	7	11月27日(日)	やまえのほとけ展 特別講演会 「球磨郡の仏像とやまえのお地藏 さま」	有木芳隆	球磨郡山江村農業 改善センター
	8	1月21日(土)	くまもとキッズミュージアム in 宇城	福田友子 藤本真緒	博物館ネットワー クセンター
	9	2月22日(水)	熊本県博物館連絡協議会専門研修 会「博物館における教育普及活動の 実践例に学ぶ」	福田友子	博物館ネットワー クセンター

⑪ 専門性向上のための研修参加状況

		期日	内容	担当者	場所
研 修 等	1	8月1日(月) ～2日(火)	令和4年度美術館を活用した鑑賞 教育の充実のための指導者研修	福田友子	国立西洋美術館 国立新美術館

⑫ 令和4年度 学芸員資格取得課程実習（博物館実習）

期日	学校・人数	内容	担当
8月24日(水) ～30日(火)	北海道大学・熊本大学・ 佐賀大学・広島大学・京 都産業大学・崇城大学 (8人)	・美術館の機能、運営等に関する講 義 ・作品の調査法と取り扱いの実習 ・展覧会企画に関する講義と実習 ・当館イベントの補助と参加実習 ・展覧会企画のプレゼンテーション	宮川聖子他 関係職員

エ 美術品収集について

購入作品

	作品名	作者名	品質形状	寸法 (cm)	制作年
1	田園	藏本朝美	油彩・キャンバス	130.3x162.0	昭和 36 年 (1961)

寄贈作品

	作品名	作者名	品質形状	寸法 (cm)	制作年
1	加藤清正書状 (附 豊臣秀吉自筆切紙)	加藤清正	紙本墨書・切継紙 卷子装	15.3×191.48	文禄 2 年か (1593)
2	茶杓	伝細川三斎	竹	長 17.0	江戸時代
3	黒中棗		木製黒漆塗	径 6.6 高 6.7	江戸時代
4	ひな鳥	江田豊	油彩・キャンバス	72.7x53.0	昭和 25 年 (1950)

令和4年度（2022年度）熊本県立美術館収集委員会 委員名簿

※各分野氏名五十音順

	専門分野	氏名	役職
1	日本・東洋古美術分野 (含む日本歴史)	今村 直樹	熊本大学永青文庫研究センター 准教授
2	同上	竹原 明理	熊本博物館 学芸員
3	同上	中山 喜一郎	福岡市美術館 総館長
4	近現代美術分野	中村 賢次	崇城大学芸術学部 教授・日本画家
5	同上	森山 秀子	久留米市美術館 副館長兼学芸課長
6	同上	山下 弘子	坂本善三美術館 学芸員
7	西洋美術分野	石井 祐子	九州大学基幹教育院 人文社会科学部門 准教授
8	同上	竹口 浩司	広島市現代美術館 学芸担当課長
就任依頼期間		令和4年（2022年）8月1日から 令和6年（2024年）7月31日（2ヶ年）	

収蔵品貸出状況

令和4年度資料貸出の記録。本リストには寄託品を含めない。

	作品名	貸出期間	貸出先	展覧会名称
1	《黄玄朴像》	R4.3.10- R5.4.30	久留米市美術 館ほか	「リアルの行方」
2	海老原喜之助《一周一景 江津湖の味》	R4.2.15-5.13	肥後の里山ギ ャラリー	「熊本の水と緑展Ⅳ 湧水潤う水辺 水前寺・江津湖一水が育む風景と歴史遺産」
3	海老原喜之助《一周一景 冬の江津湖》			
4	海老原喜之助《一周一景 (月夜の湖) 江津湖》			
5	淵田安子《シャツ》	R4.4.20-7.20	つなぎ美術館	「淵田安子 いつかたどり着いたら」
6	淵田安子《蒼いパン》			
7	淵田安子《別離》			
8	《桜花美人逍遥図》	R4.7.20-9.30	福井県立若狭 歴史博物館	「肉筆浮世絵にみる四季の愉しみーお茶道具を添えて〜熊本県立美術館所蔵今西コレクションより
9	《桜花美人図》			
10	《嵯峨野図》			
11	《牛若丸図》			
12	《西王母図》			
13	《鍾馗図》			
14	《関羽図》			
15	《日光滝図》			
16	《海辺茶店図》			
17	《美人更衣図》			
18	《縁先納涼美人図》			
19	《納涼美人図》			
20	《蚊帳脇美人図》			
21	《牽牛織女図》			
22	《閻魔帳図》			
23	《月菽図》			
24	《紫式部図》			
25	《美人観月図》			
26	《菊慈童図》			
27	《立美人図》			
28	《美人訪慮図》			
29	《帰り路図》			
30	《恵比須大黒天図》			

	作品名	貸出期間	貸出先	展覧会名称
31	《正月風景図》	R4.7.20-9.30	福井県立若狭 歴史博物館	「肉筆浮世絵にみる四季 の愉しみーお茶道具を添 えて～熊本県立美術館所 蔵今西コレクションよ り」
32	《萬歳図》			
33	《羽根遊び図》			
34	《追羽根美人図》			
35	《節分図》			
36	《懸想文売り図》			
37	《雪中常盤御前図》			
38	《大黒揚屋入り図》			
39	《朱衣見立達磨図》			
40	《美人目隠し達磨図》			
41	平田郷陽《瑞鳥》			
42	平田郷陽《端午》			
43	平田郷陽《明月》			
44	平田郷陽《熟柿（座像）》			
45	鼠志野草文向付			
46	三首和歌			
47	絵唐津蛤形平向付			
48	増村益城《乾漆流水文盛器》			
49	鍋木清方《滝見茶屋図》			
50	《河太郎棗》			
51	《刷毛目茶碗》			
52	《瓢箪回也香合》			
53	豪潮《月 皓月照禅心》			
54	《古瀬戸茶入 銘霜夜》			
55	《高取管耳水指》			
56	《三大字 亀鶴寿》			
57	《古瀬戸鶴首茶入》			
58	《染付松竹梅文薄茶器》			
59	《八代象嵌茶碗 銘南山》			
60	増村益城《乾漆根来盤》			
61	《七仏通戒偈》			
62	《唐物利休丸壺茶入》			
63	《黒楽茶碗 銘難波江》			
64	《利休黒棗 隋流斎判》			
65	《古瀬戸渋紙手茶入 銘村雨》			
66	《信楽茶入》			
67	《丹波茶入》			

	作品名	貸出期間	貸出先	展覧会名称
68	《丹波肩衝茶入》	R4.7.20-9.30	福井県立若狭 歴史博物館	「肉筆浮世絵にみる四季の 愉しみーお茶道具を添えて ～熊本県立美術館所蔵今西 コレクションより」
69	《丹波鶴首茶入》			
70	《絵唐津茶入》			
71	《乾漆かたばみ文茶器》			
72	伊藤若冲《鶏図》	R4.8.16- 10.20	福岡市美術館	「国宝 鳥獣戯画と愛ら しき日本の美術」
73	《巴螺鈿鞍》	R4.9.23-12.7	熊本博物館	「あつまれ！地域の宝も のー熊本市域にのこる “文化財”のミリオク」
74	西孝親《裸女二人》	R4.10.24- 10.30	熊本県立大津 高等学校	「熊本県立大津高等学校 創立 100 周年記念展～第 75 回陽美展・第 34 回熊 本県立大津高等学校美術 コース卒業制作展～」
75	オーブリー・ピアズリー「サロ メ」より《月の中の女》	R4.11.2- R5.2.8	下関市立美術 館	「ピアズリーの系譜 ア ールヌーヴォー、日本の 近代画家たち」
76	《タイトルページのためのデザ イン》			
77	《表紙のためのデザイン》			
78	《挿画リストのためのデザイ ン》			
79	《孔雀のスカート》			
80	《黒いケープ》			
81	《プラトニックな悲嘆》			
82	《ヨハネとサロメ》			
83	《ヘロディアス登場》			
84	《ヘロデ（またはヘロディア ス）の目》			
85	《腹のダンス（ヘロデの前で挑 発的に踊るサロメ）》			
86	《サロメの化粧Ⅰ》			
87	《サロメの化粧Ⅱ》			
88	《ダンサーへの報酬》			
89	《クライマックス》			
90	《長椅子にすわるサロメ》			
91	《終章》			

	作品名	貸出期間	貸出先	展覧会名称
92	マックス・クリンガー『死について』より《ヘロデ》	R4.11.2-	下関市立美術館	「ビアズリーの系譜 アールヌーヴォー、日本の近代画家たち」
93	『月映』1～6号	R5.2.8		
94	上妻利弘《SEIMEI》	R5.2.18-6.8	肥後の里山ギャラリー	「熊本の現代作家展Ⅷ 上妻利弘展 SEIMEI」

■ 収蔵品の概要

■ 収蔵品一覧表 (令和5年3月31日現在)

更新: 令和 5 年 3 月 31 日

区分	県有美術品										基金財産		所蔵品計		寄託品		合計			
	購入		寄贈		保管転換		小計		R3年度	R4年度	小計	R3年度	R4年度	小計	R3年度	R4年度	小計	R3年度	R4年度	小計
	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度	R3年度	R4年度
日本	絵画	167	167	454				621		13		634		267	1	901		268	1	902
	書跡	182	182	483	1			665	1	17		682	1	336		1,018	1	336		1,019
	彫刻			1	1			1	1			1		48		49		48		49
	工芸(陶磁)	79	79	94				173		4		177		20		197		20		197
古美術	工芸(他1)			2			2					2			2	2				2
	工芸(他2)	6	6	234	2			240	2	1		241	2	1,353		1,594	2	1,353		1,596
その他															9	9		9		9
計	494	434	1,268	3	1,271		1,702	3	1,705	35		1,737	3	2,039	1	3,776	4	2,040		3,780
日本	油彩画	73	73	426	1	427	6	505	1	37	1	542	2	17		559	2	17		561
	版画	113	113	749				862		17		879		4		883		4		883
	デッサン	38	38	293				331		2		333		4		337		4		337
	彫刻	38	38	35				73		31		104		1		105		1		105
近現代	工芸	83	83	114				197		23		220		1		221		1		221
	日本画	160	160	163				323		18		341		17		358		17		358
その他	水彩画・その他	13	13	117				130		3		133		6		139		6		139
	計	518	518	1,897	1	1,898	6	2,421	1	131	1	2,552	2	50		2,602	2	50		2,604
東洋	絵画	10	10	1			11					11		1		12		1		12
	書跡	2	2	2			4					4				4				4
	彫刻			1	1		1	1				1		1		2				2
	工芸(陶)			7	7		7	7				7				7				7
西洋	工芸(他)	12	12	5			17					17				17				17
	考古			110			110					110				110				110
その他	計	24	24	130			154					154				156				156
	油彩画	5	5	3			8			6		14		3		17		3		17
西洋	版画	138	138	102			240			11		251				251				251
	デッサン	1	1	1			2			2		4				4				4
その他	彫刻	8	8				8				8					8				8
	水彩画・その他	3	3	5			8			2		10				10				10
計	155	155	111			266			21		287		3		290		3			290
美術資料			201			201			2		203				203					203
合計	1,131	1,131	3,607	4	3,611	6	4,744	4	4,748	189	1	4,933	5	2,094	1	7,027	6	2,095		7,033

オ 永青文庫振興基金事業について

○県立美術館の永青文庫常設展示の充実を図り、文化の振興を図ることを目的に、平成20年(2008年)3月に永青文庫常設展示振興基金(以下、「基金」)が設立された。この基金を活用して、本県にある永青文庫の所蔵品の調査・修復を実施している。

I 「修復事業」について

(1) 修復事業の目的

永青文庫所蔵資料(県美「寄託品」及び「預かり品」等)のうち、優れた美術品であるものの、経年変化等により損傷を被っているため展示困難なものを修復することにより熊本県立美術館での展覧会事業に活用することを目的とする。

(2) これまでの修復実績

	年度	作品名	実績額 (千円)	修復後の主な展示実績 (県美公開分を中心に)
1	平成20年度	細川忠利所用《頭形兜》 <small>ずなりかぶと</small>	1,980	「細川家のよろいの美展(H22)」 「開館40周年記念展(H25)」
2	平成21年度	細川幽斎所用 《紅糸威腹巻》	3,906	「細川幽斎展(H22)」 「信長からの手紙展(H27)」
3	平成22年度	①《帝鑑図屏風》 ②《狩獵図》4幅対	22,446	「雪舟流と狩野派展(H28)」 「開館40周年・リターン展(H29)」
4	平成22~23 年度継続	《山路図》 (横山大観筆)	4,624	「大観と春草展(H25)」 「開館40周年・リターン展(H29)」
5	同上	《月影》 (上村松園筆)		「大観と春草展(H25)」 「開館40周年記念展(H25)」
6	同上	《西王母・琴高仙人図屏風》	10,796	「修復完了記念・細川コレ展(H25)」 「雪舟流と狩野派」(H28)」
7	平成23~24 年度継続	《竹林七賢図屏風》	9,835	「修復完了記念・細川コレ展(H26)」 「雪舟流と狩野派展(H28)」
8	平成24年度	細川忠興所用 《黒糸威二枚胴具足》	2,835	「開館40周年記念展(H25)」 「信長からの手紙展」(H26)
9	平成26~27 年度継続	《源氏物語扇面貼交屏風》	10,776	「雪舟流と狩野派展(H28)」
10	同上	《細川三斎像》	1,905	「ザ・家老展(八代市博H30)」
11	同上	《細川忠利像》(沢庵宗彭賛)	2,095	「細川ガラシャ展(H30)」

(平成 28～30 年度は、熊本地震被災対応のため修復なし)				
12	令和元～2 年度継続	《細川忠利像》(大淵玄弘賛)	2,334	「よみがえった名宝 (R2) 」
13	令和 3～4 年 度継続	《一の谷・屋島合戦図屏風》	12,191	「美術館コレクションⅡ (R5) 」
		総計額		85,723

(3) 令和 5 年度の修復計画

- ・《桐九曜紋唐草蒔絵鞍・鏡》の修復を行っている。修復金額 5,019 千円。

Ⅱ 「永青文庫所蔵資料（預かり品）調査事業」について

（１）「永青文庫預かり品」について

- ・かつて熊本城十八間櫓に保管されていた永青文庫所蔵の美術工芸品が、昭和５７年（１９８２年）の櫓の改修工事にもなつて当館収蔵庫に一時預かりされてきた。当館ではこれを「永青文庫預かり品」と称している。
- ・預かり品の総点数は、永青文庫側の古リストによればおよそ１，４７０件である。

（２） 調査事業の目的

- ・本調査事業では、当館収蔵庫に保管される「永青文庫預かり品」の悉皆調査を実施し、全貌を明らかにする。同時に、保存修復対策に活用可能な作品台帳を作成するとともに、「調査報告書」刊行を目的とする。
- ・調査及び修復が完了した預かり品については、当館での展示に活用できる。

（３） 調査方法

- ・文化庁の指導の下に、当館学芸課職員を中心に調査団を組織した。また、当館に専門家のいない武器武具、能面能道具、大名調度分野等について、外部学識者を調査指導者に依頼した。永青文庫学芸員にも調査参加を依頼した。
- ・１件（１点）ごとの精査・写真撮影を実施し、作品台帳を作成している（作品台帳は、武器武具、能面能道具、大名調度等の分野ごととする）。
- ・台帳には、名称・数量・品質形状・制作時代・保存状況・修復の必要性等を記載し、詳細な写真を添付している。

（４） 令和４年度の調査実績

① 事業経過

- ・令和３年度（２０２１年度）から引き続き、その他工芸品類及び書画・記録類の精査・写真撮影を実施。
- ・調査は、当館学芸課職員を中心にして、永青文庫学芸員にも参加を依頼して行った。

② 調査結果

- ・その他工芸品類及び書画・記録類の精査・写真撮影を完了し、調査報告書第４集を刊行した。
- ・令和４年度（２０２２年度）末ですべての預かり品について調査を完了した。

③ 成果

- ・預かり品のうち、武器武具類、能面能道具類、大名調度類について調査を完了し、武器武具類（４９６点）、能面能道具類（１７８点）、大名調度類（６４９点）を県立美術館に正式受託。その他工芸品類及び書画・記録類（４３８点）については、令和５年度（２０２３年度）中に正式受託を目指す（※令和５年〈２０２３年〉７月１日付けで受託）。

カ 改修工事について

当館は、令和5年（2023年）3月で築46年目を迎え、施設・設備は老朽化が進んでいる状況である。そのため、美術品の適正な保管環境と来館者の安全確保及び施設の保全・長寿命化を目的とし、平成27年度（2015年度）から令和3年度（2021年度）にかけて改修工事を実施してきた。

なお、令和4年度（2022年度）実施分については、令和6年度（2024年度）実施予定工事の設計委託を実施した。

なお、設計委託内容については、以下のとおり。

	設計委託内容
令和4年度	①増築棟・荷解き場防水工事 ②増築棟エレベータ回収工事